

(社)日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第12回 LLW 放射能評価分科会 (F10Ph2SC) 議事録

1. 日時 2009年8月21日(金) 13:30~15:00

2. 場所 日本原子力技術協会 NOF 芝ビル7階A・B会議室

3. 出席者 (順不同, 敬称略)

(出席委員)

開始時

川上(主査), 岩崎(副主査), 片寄(幹事), 柏木, 黒澤, 佐々木, 高橋,
田中, 七田, 亀尾, 中田, 福村, 中山, 見上, 森本, 渡邊(16名)

途中出席

市毛(13:45~出席)(1名)

(欠席委員) 宿谷, 明里(2名)

(常時参加者) 浅野, 飯田, 小林(五十嵐代理), 石川, 中瀬, 尾崎, 三宅, 山田, 武部,
向原, 能浦, 中野, 林(北村代理)(13名)

(欠席常時参加者) 大間, 三根, 村木, 熊野, 杉山, (5名)

(傍聴) 野村, 森山, 加藤, 杉山, 小林, 辻(5名)

(事務局) 谷井

4. 配布資料

F10Ph2SC12-1 (社)日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第11回 LLW 放射能評価分科会(F10Ph2SC)議事録(案)

F10Ph2SC12-2 標準委員会の活動状況

F10Ph2SC12-3 人事について

F10Ph2SC12-4-1 表面汚染の取扱いに関する標準本体・解説記載案

F10Ph2SC12-4-2 附属書C(計算例)の修正案

F10Ph2SC12-5-1 標準本体/附属書/解説案(本報告用)

F10Ph2SC12-5-2 【本報告】「余裕深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順
(案)」

F10Ph2SC12-5-3 本報告(概要)「余裕深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本
手順(案)」

F10Ph2SC12-5-4 第34回標準委員会(2008年2月9日)中間報告コメント対応案

F10Ph2SC12-6 「LLW放射能評価分科会」の今後の予定について

F10Ph2SC12-参考-1 「余裕深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順(仮

称)」標準構成の変更案

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局より、開始時点で委員 19 名中、代理委員を含めて 16 名の出席があり、決議に必要な委員数（13 名以上）を満足している旨の報告があった。

(2) 前回議事録案の確認 (F10Ph2SC12-1)

事務局より、前回議事録案について、事務局より事前に配布したものから変更は無い旨説明があり、承認された。

(3) 標準委員会の活動状況 (F10Ph2SC12-2)

事務局より、標準委員会の活動状況について報告された。

(4) 人事について

① 報告

委員退任

事務局より、石川 真澄氏（東京電力（株））及び明里 栄策氏（関西電力（株））の委員の退任報告があった。

常時参加者登録解除

事務局より、村木 省吾氏（日本原燃（株））、五十嵐 省一氏（電環境エンジニアリング（株））、熊野 裕美子氏（東京電力（株））及び北村 高一氏（日本原子力研究開発機構）の常時参加者登録の解除の報告があった

② 承認

委員選任

事務局より、新委員として、七田 直樹氏（東京電力（株））及び山田 基幸氏（関西電力（株））が推薦されている旨紹介され、決議した結果、新委員に選任された。

常時登録参加者登録

事務局より、石屋 創士氏（日本原燃（株））、野村 匡芳氏（東京電力（株））、小林 香奈子氏（電環境エンジニアリング（株））及び林 宏一氏（日本原子力研究開発機構）が常時参加者登録を希望されている旨紹介され、決議した結果、常時登録参加者として登録された。

(5) 表面汚染の取扱いに関する標準本体・解説記載案について (F10Ph2SC12-4-1)

尾崎常時参加者より、F10Ph2SC12-4-1 に従い、第 11 回分科会で審議した放射化金属の表面に付着しているクラッドに対する放射エネルギーの評価の考え方 (F10Ph2SC11-4) の

標準本体及び解説への記載案について説明があり、以下の議論を踏まえて概ね了承された。

- ・解説の記載にクラッドの放射能を“無視小”として評価できるとの記載があるが、無視小とは一般的な表現ではないのではないか。
→クラッドの放射能の影響はないとして評価できる場合もある、との表現に見直す。
- ・解説表 5（放射化学分析データ）の放射化学分析方法等は記載しなくてよいのか。
→解説表 5 は公開文献（但し公開は今後の予定）からの引用の位置付けのため、本標準での記載は不要と考えられる。
- ・解説において、クラッドの放射能は浅地中ピット処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法（AESJ-SC-F10:2007）を適用できると記載できないのか。
→前回の分科会にて L1 廃棄物の分析値と L2 廃棄物とのデータ比較を行い適用の可能性について説明しているが、現時点では、AESJ-SC-F10:2007 の適用性の根拠とできる十分なデータの提示が困難であるため、今回の記載（将来のデータ蓄積後に決定）としている。

（6）附属書 C（計算例）の修正について（F10Ph2SC12-4-2）

片寄幹事及び中野常時参加者より、F10Ph2SC12-4-2 に従い、放射化計算を行う場合の計算例（附属書 C）について、チャンネルボックス（BWR）、制御棒（PWR）、黒鉛減速材（GCR）の計算例を一つの資料として取りまとめた説明があり、以下の議論を踏まえて概ね了承された。

- ・単位系、用語及び体裁については、資料を通して不整合箇所が見受けられるため、適切に修正すること。
- ・放射化計算の計算条件（表 C.1, 表 C.2, 表 C.3）の備考欄は、記載の程度について整合を図ること。
- ・放射化学分析（C.2.2, C.3.2, C.3.3 など）との用語について、本附属書における分析方法を勘案すると余りなじまないため、表現を見直した方がよい。
- ・放射化学分析値と理論計算結果との比較（C.2.4, C.3.4, C.4.4）に“よく一致した”とあるが、本附属書では計算方法の妥当性を確認するために十分な計算条件を与えたために結果がよく一致した例を示しているものであり、全ての放射化学分析値と理論計算結果が同程度に一致するとの誤解を与える可能性がある。
→本附属書作成の趣旨、表現方法について誤解を与えないように見直す。

（7）標準本体/附属書/解説案（本報告用）について（F10Ph2SC12-5-1, 12-5-2, 12-5-3, 12-5-4, 12-参考-1）

片寄幹事より、F10Ph2SC12-5-1, 12-5-2, 12-5-3, 12-5-4, 12-参考-1 に従い、原子燃料サイクル専門部会への本報告用の説明資料案について説明があり、基本的に了承

された。このため、当該資料については、次回原子燃料サイクル専門部会（2009年8月28日）に本報告することとなった。

なお、F10Ph2SC12-5-1へのコメント等があれば、次回原子燃料サイクル専門部会の日程とは関係なく、二週間程度を目安に事務局に連絡することとなった。

（8）分科会の今後の予定について（F10Ph2SC12-6）

片寄幹事より、F10Ph2SC12-6に従い、今後の予定について説明があり、次回分科会については原子燃料サイクル専門部会（本報告）の書面投票後のコメント対応として開催する（但し、コメントの種類、数量による）こととなった。

6. 次回の予定について

次回分科会は、原子燃料サイクル専門部会への本報告の状況を踏まえ、追って連絡することとした。

以上